

丹波篠山市気候非常事態宣言

今、世界各地では記録的な高温、豪雨、干ばつなどの異常気象が増加しています。日本においても近年、「平成29年7月九州北部豪雨」や「平成30年7月豪雨」といった集中豪雨、台風の大型化、猛暑などの気候変動による災害・被害が頻発しています。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)では、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、20世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、人間の影響の可能性が極めて高いと報告しています。日本を含む世界各国は、2015年に気候変動の脅威に世界全体で対応するための国際的な枠組みである「パリ協定」を採択し、最終的な到達点として、地球温暖化の主な原因となる二酸化炭素を排出しない「脱炭素社会」の実現に向けて動き出しています。

丹波篠山市は、城下町を中心とした歴史的な街並み、伝統文化とともに、日本の原風景と言われる農村風景、自然景観、多様な生きものを守り伝えてきました。また、丹波霧にみられる盆地特有の気候風土と先人たちのたゆまぬ努力によりコシヒカリ、丹波篠山黒豆、山の芋などの特産物がつぐられ、農業の都「農都・丹波篠山」として発展してきました。

しかし、丹波篠山市においても年間平均気温は上昇傾向にあり、豊かな恵みをもたらす丹波霧は減少傾向にあります。これにより、特産物の品質低下・収量減少や気候変動による水害・土砂災害などが発生するおそれが高まっています。現在の気候変動は、私たちの生活を脅かす極めて深刻な状況となっています。

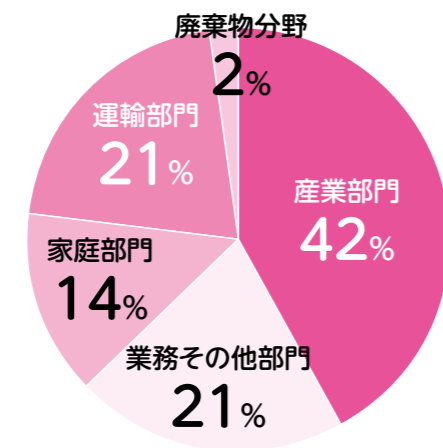
このような気候の危機的な状況を乗り越えるためには、市民、地域、事業者、行政など様々な主体が危機感を共有し、二酸化炭素の排出削減に向けた積極的な行動をとる必要があります。よって、ここに気候非常事態を宣言するとともに、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロ(ゼロカーボン)を目指すことを表明します。

市の方針

2050年ゼロカーボンの実現に向けて、市は次の5つの方針により率先してCO₂の排出削減に取り組んでいきます。

- ①2050年ゼロカーボンの実現に向けて、エネルギーをつくり、かしこく使うまちを目指します。
- ②ごみを減らし、資源としてうまく循環させるまちを目指します。
- ③豊かな自然環境のもとで人と生きものが共生するまちを目指します。
- ④災害による被害を軽減するまちを目指します。
- ⑤みんなが気候変動を正しく理解し、積極的に行動するまちを目指します。

図1. 市内の部門別CO₂排出量の割合



加速させるものです。
「今すぐ」取り組み始めよう
市では、市内のCO₂排出量を376.7kt・CO₂(2013年度と試算し、部門別の割合は図1のとおりとなっています。気候の危機的な状況を回避するためには、市民、事業者、行政などが一体となってCO₂の排出削減に取り組んでいく必要があります。

持続可能な開発目標(SDGs)との関係
気候非常事態宣言に伴う地球温暖化、気候変動問題への対応は、食品ロスの削減や生態系保全・持続可能なまちづくりなど、多くのSDGsの目標達成につながることから、全世界で積極的な対応が求められています。

「丹波篠山市気候非常事態宣言」を表明しました

丹波篠山市と丹波篠山市議会は、1月5日に「気候非常事態宣言」を表明しました。今回の特集では、気候非常事態宣言の内容や、市民の皆さんや事業者の皆さんに取り組んでいただきたい対策などをお知らせします。

丹波篠山がこれからも魅力にあふれ、私たちや子どもたちがこれからも安全に住み続けられるまちであるために、「今すぐ」できることから取り組んでいきましょう。
問い合わせ 農村環境課 ☎552-5013



「食品ロスをなくそう!」とみんなで楽しく取り組んでいる多紀小学校4年生の皆さん(活動の様子は4ページで紹介)

気候変動の要因となる地球温暖化

地球を包む大気には、二酸化炭素など、宇宙へ放出される熱の一部を吸収し、地表を適度な温度に保つ効果を持つガス(温室効果ガス)が含まれています。地球温暖化は、温室効果ガスの増加によって地表から太陽の熱が放出されにくくなり、地球の温度が上昇する状態のことをいいます。
近年、世界各地で増加する記録的な高温、豪雨、干ばつなどの異常気象は、人間の活動を要因とする地球温暖化によるものと考えられています。地球温暖化は、私たちの生命を脅かすとともに、丹波篠山が誇る特産物や豊かな自然環境にも影響を与える身近に迫った危機です。

気候非常事態宣言

市と市議会は、こうした気候の危機的な状況を市民、事業者などの皆さんと共有し、共に行動していくために、1月5日に「丹波篠山市気候非常事態宣言」を行うとともに、2050年までに二酸化炭素(CO₂)排出量実質ゼロをめざすことを表明しました。
気候非常事態宣言は、国や自治体、学校、団体といった組織が、気候変動が異常な状態であることを認める宣言を行うと同時に、気候変動を緩和するための積極的な政策を打ち出すことで、市民や事業者などの関心を高め、気候変動への行動を

事業所でできる！ 温暖化対策

市では、工場や事業所などの事業分野でのCO₂の排出削減に向けて、今回の宣言に賛同いただける事業所などを募集し、多くの賛同をいただきました。

事業所などからのCO₂削減に向けて、次のような取り組みを進めていきましょう。

【事業所でできるCO₂削減に向けた取り組み】

- ・適正な冷暖房温度の設定・夏冬のエコスタイル
- ・節電・節水
- ・省エネ・新エネ設備機器の導入
- ・環境配慮製品の積極購入
- ・敷地の緑化
- ・自動車利用の抑制、エコドライブ
- ・ごみの再資源化



▲賛同事業所はこちらから見ることができます。

ご家庭にあわせたCO₂削減の アドバイスを受けてみたい方に

うちエコ診断を受診してみませんか？

公益財団法人「ひょうご環境創造協会」が実施する「うちエコ診断」を利用することで、各家庭のライフスタイルに合わせた省エネ・CO₂削減対策の提案を受けることができます。

診断は無料で、診断に要する時間は45～60分程度です。



詳細は、こちらから見る您可以通过。

▶CO₂削減に向けて取り組まれている皆さんを紹介

うちエコ診断士は、各家庭の光熱費やCO₂排出量を見える化し、適切なアドバイスや提案を行います。エアコンの温度を一度下げたり、蛍光灯からLEDに替えたりするだけでも省エネの効果があります。診断は無料ですので、ぜひ診断を受けていただき、省エネを意識してほしいと思います。



うちエコ診断士

岡田政光さん

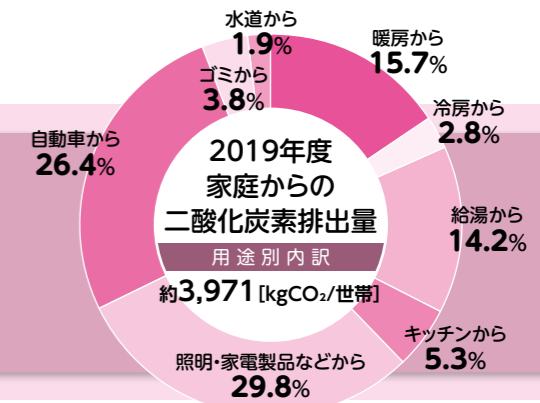
2年生のときに参加した放課後セミナーでSDGsについて学び、環境に関心を持つようになりました。セミナーでは、各班に分かれ、食品ロスの削減について現状や課題を調査し、その解決策を考えました。今では、生活していく中で、分別することの大切さなど、環境のことを考えながら行動できるようになりました。



篠山産業高等学校
総合ビジネス科3年
久下洋華さん

国の機関では、家庭から排出されるCO₂の内訳を右図のように試算しています。

一人一人が行う小さな省エネの取り組みでも、多くの市民の皆さんが取り組むことで、CO₂削減の大きな力になります。省エネは家計にも優しくお得につながります。次の取り組みを参考に、地球にも家計にも優しい取り組みを進めていきましょう。



テレビ

省エネメニュー	削減量	削減額
テレビを見ないときは消す	8.2kg	450円
画面の輝度を下げる	13.2kg	730円

冷蔵庫

省エネメニュー	削減量	削減額
ものを詰め込みすぎない	21.4kg	1,180円
無駄な開閉はしない	5.1kg	280円
開けている時間を短くする	3.0kg	160円
設定温度を「強」から「中」に下げる	30.1kg	1,670円

エアコン

省エネメニュー	削減量	削減額
夏の冷房時の室温を28℃に設定する	14.8kg	820円
冬の暖房時の室温を20℃に設定する	25.9kg	1,430円

お風呂

省エネメニュー	削減量	削減額
間隔を開けずに入浴する	85.7kg	6,190円
シャワーはこまめに止める	28.7kg	3,210円

電気ポット

省エネメニュー	削減量	削減額
保温せずに利用のつど沸騰させる	52.4kg	2,900円

炊飯器

省エネメニュー	削減量	削減額
保温は4時間までとしレンジを併用する	26.9kg	1,240円

上記のすべてに取り組むと、1世帯年間で422kgのCO₂、26,500円を削減できます。市内の全世帯(17,580世帯【令和3年12月末現在】)で取り組んだ場合、7,419千トン(市内排出量の約2%)のCO₂を削減できることになります。

ガスコンロ

省エネメニュー	削減量	削減額
火が鍋からはみ出ないように調整する	5.3kg	390円

照明

省エネメニュー	削減量	削減額
電球型LEDランプに取り換える	43.9kg	2,430円

温水洗浄便座

省エネメニュー	削減量	削減額
使わないときはフタを閉める	17.0kg	940円

自動車

省エネメニュー	削減量	削減額
こまめなアイドリングストップ	40.2kg	2,480円

長年、地球温暖化防止活動に携わり、小・中学校や老人会などで環境出前講座の実施や、マイバック持参運動に取り組んできました。今回、気候非常事態宣言に取り組まれていない自治体が多い中、丹波篠山市が先駆的に取り組まれたことはとてもうれしいことです。今後もCO₂削減に向けて取り組んでいきたいと思っています。



市地球温暖化防止活動推進連絡会代表
谷口功さん



多紀小学校では、SDGsの目標「2.飢餓をゼロに」をめざして、「食品ロスをゼロにしよう」と取り組まれています。4年生が作詞・作曲したアイデア満載のオリジナルソング「食品ロスの歌」を歌いながら、全校に広めました。給食でお茶碗のご飯粒を1粒も残さず、4年生は頑張っています。

「食品ロスの歌」はこちらから▶

